

2022年

北海道地方

# 2月の天候

2022年3月1日  
札幌管区气象台 気象防災部  
地球環境・海洋課

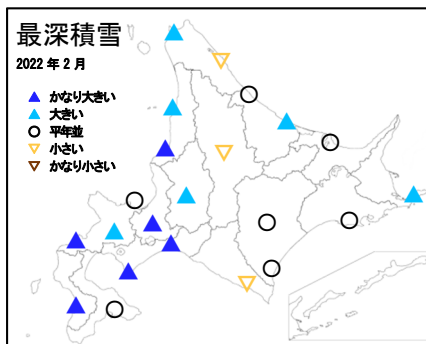
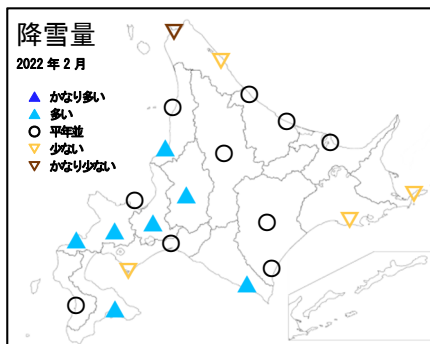
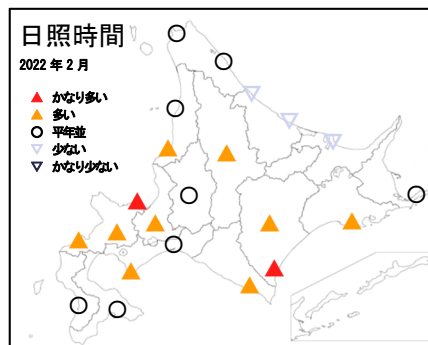
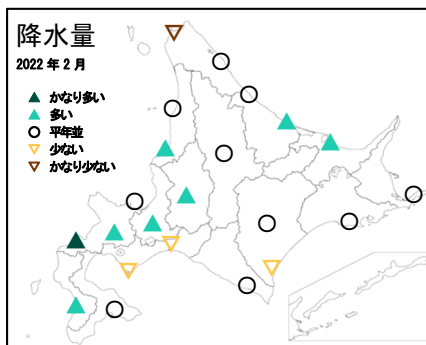
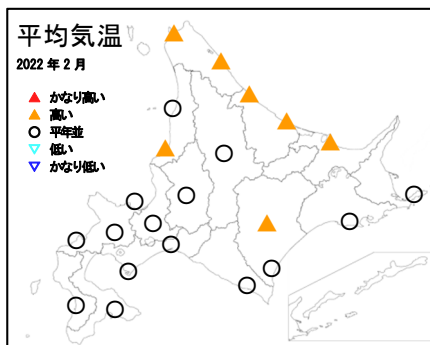
## 概況

— 冬型の気圧配置と低気圧の影響で記録的な大雪の所も。 —

2月上旬は、冬型の気圧配置が続いたため、太平洋側では晴れた日が多かったが、日本海側では雪の降った日が多かった。特に、5日から6日にかけては強い雪雲が断続的に流入したため、石狩地方では記録的な大雪となり、札幌では24時間降雪量60cmを観測した。中旬は、気圧の谷や低気圧の影響により雪が降り、局地的に大雪となった所もあったが、高気圧に覆われて全道的に晴れた日もあった。下旬は、前半を中心に冬型の気圧配置が続き、日本海側を中心に雪の降った日が多かった。20日から23日にかけては、急速に発達した低気圧と強い冬型の気圧配置の影響により大荒れの天気となり、22日に豊浦町大岸で日降雪量61cmを観測するなど記録的な大雪となった所もあった。

気温は、下旬は平年より高く、月平均気温は平年並だった。降水量は、上旬は平年より少なく、下旬は多く、月降水量は平年並だった。日照時間は、上旬は平年より多く、中旬はかなり多く、下旬は少なく、月間日照時間は多かった。降雪量は、上旬は平年より少なく、月降雪量は平年並だった。なお、上旬の太平洋側の降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、少ない方から第2位の記録となった。

## 階級分布図



## 月の統計値(地域平均)

	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.5	0	95	0	107	+	97	0
日本海側	+0.5	0	111	+	113	+	109	0
オホーツク海側	+1.0	+	113	+	87	-	87	0
太平洋側	+0.3	0	67	-	108	+	88	0

注) ・数値は、地域内の气象台等(日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点)の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。  
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991~2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991~2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 旬の統計値（地域平均）

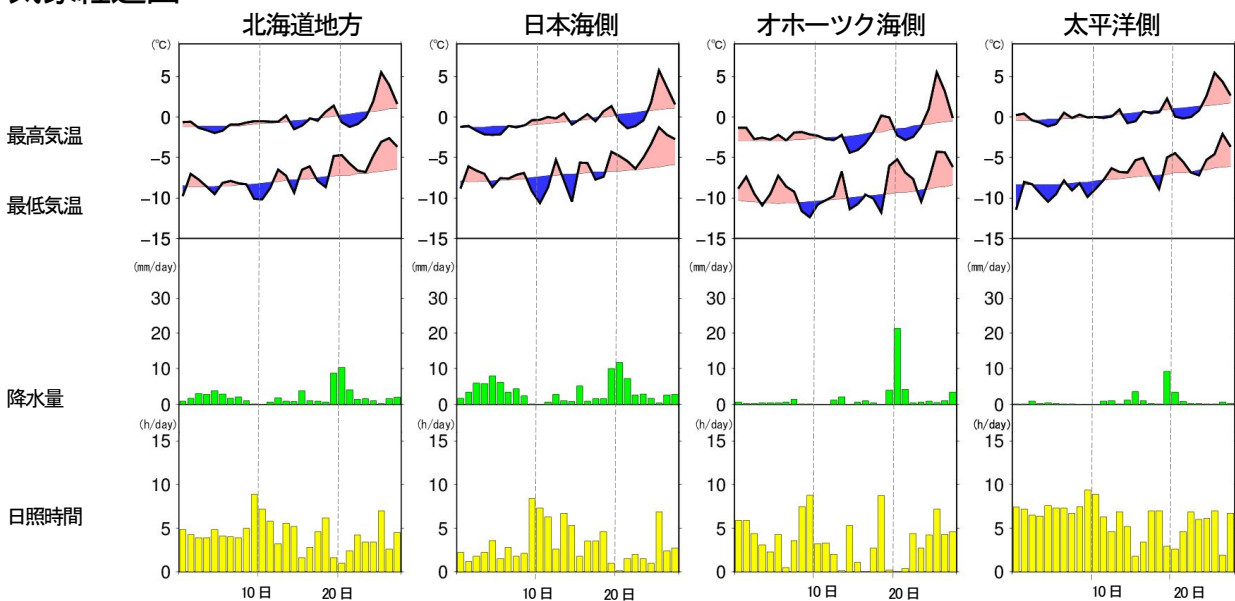
上旬	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.1	0	72	-	122	+	80	-
日本海側	+0.1	0	129	+	112	0	132	+
オホーツク海側	+1.0	+	44	-	119	+	56	-
太平洋側	-0.3	0	14	--	137	++	26	--

中旬	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.2	0	95	0	132	++	103	0
日本海側	+0.1	0	83	0	180	++	81	-
オホーツク海側	+0.5	0	56	-	70	--	56	--
太平洋側	+0.2	0	130	+	102	0	155	+

下旬	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+1.4	+	121	+	71	-	109	0
日本海側	+1.4	+	140	+	61	-	115	+
オホーツク海側	+1.8	+	250	++	70	-	162	+
太平洋側	+1.2	+	39	0	84	-	74	0

注) ・数値は、地域内の気象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。  
 ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 気象経過図



## 日別の天気概況

### 上旬

1～4日：冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

5～6日：冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪が降り、石狩地方では強い雪雲が断続的に流入し記録的な大雪となった所があったが、太平洋側では概ね晴れた。日降雪量は6日に石狩で44cmなど。

7～9日：冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

10日：はじめ気圧の谷の影響で日本海側では雪の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて全道的に晴れた。

### 中旬

11日：高気圧に覆われて概ね晴れたが、気圧の谷の通過により日本海側北部では曇った所もあった。

12日：高気圧に覆われて北海道の広い範囲で晴れたが、前線の通過により夕方から日本海側南部と太平洋側西部では雪の降った所があった。

13日：低気圧を含む気圧の谷の影響で北海道の広い範囲で雪が降ったが、晴れた所もあった。

14日：はじめ気圧の谷の通過によりオホーツク海側を中心に雪が降ったが、次第に高気圧に覆われて日本海側と太平洋側では晴れた所が多かった。

15日：はじめ高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、低気圧の接近により昼過ぎから日本海側南部と太平洋側西部では雪の降った所があった。

16日：低気圧の影響で太平洋側を中心に雪が降り、大雪となった所もあった。日降雪量は厚沢部町鶉で41cmなど。

17日：日本海北部を南下する低気圧の影響で太平洋側西部を中心に雪が降ったが、晴れた所もあった。

18日：冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

19日：高気圧に覆われてオホーツク海側や太平洋側東部では晴れた所が多かったが、低気圧の接近により夜には日本海側と太平洋側西部では雪の降った所があった。

20日：日本海の低気圧と三陸沖を急速に発達しながら北上した低気圧の影響で大荒れの天気となり、太平洋側東部では局地的に大雪となった所があった。日降雪量は羅臼で50cmなど。

### 下旬

21～23日：低気圧と強い冬型の気圧配置の影響で大荒れの天気となり、記録的な大雪となった所もあった。日降雪量は22日に豊浦町大岸で61cmなど。

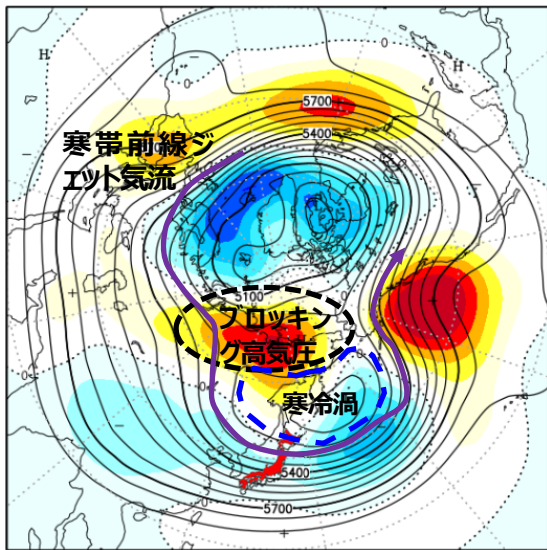
24～25日：冬型の気圧配置で日本海側とオホーツク海側では雪の降った所が多かったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

26日：はじめ高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、気圧の谷の接近により夕方から雪や雨の降った所があった。

27日：前線を伴った低気圧の通過により雪の降った所が多かった。

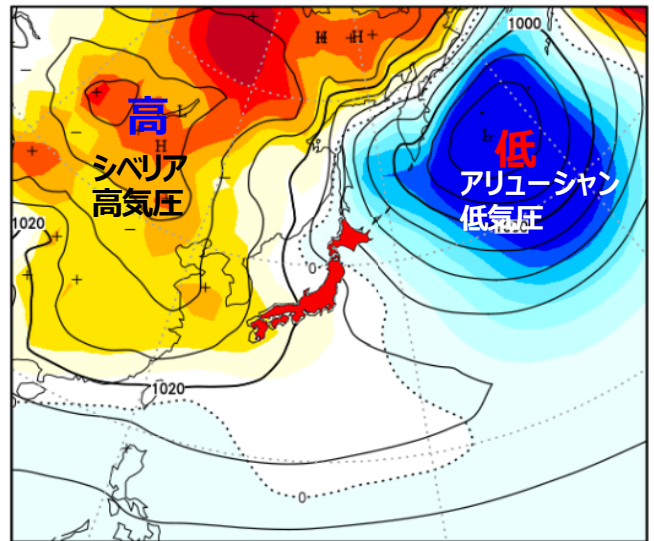
28日：冬型の気圧配置の影響で日本海側とオホーツク海側では雪が降ったが、太平洋側では晴れた所が多かった。

## 2月の大気の流れと地上天気図の特徴



北半球の月平均500hPa高度と平年偏差  
(平年値は1991~2020年の平均値)

実線は500hPa高度 (m)、着色は平年偏差 (m)。平年偏差が暖 (寒) 色の領域は平年より高度が高 (低) く、一般に暖 (寒) 気に覆われやすい。上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている所で偏西風が蛇行しており、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強い。



日本付近の月平均海面気圧と平年偏差  
(平年値は1991~2020年の平均値)

実線は等圧線 (hPa)、着色は平年偏差 (hPa)。平年偏差の暖 (寒) 色は、平年より気圧が高 (低) い領域。寒色の領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

### 500hPa (上空約5500m) 天気図

東シベリア付近にブロッキング高気圧 (黒点線) があり、カムチャツカ半島付近に寒冷渦 (青点線) が位置しやすかった。このため、北海道付近は、北から強い寒気が流れ込んだ時期もあった。

### 地上天気図

シベリア高気圧は平年より勢力が強く、大陸から西日本付近へ張り出した。アリューシャン低気圧は平年より南側で強く、オホーツク海にかけて平年より気圧が低かった。また、北海道付近にかけても気圧が低く、北海道付近は低気圧と強い冬型の気圧配置の影響により、日本海側を中心に大雪となった時期もあった。

## 月の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間			降雪量			最深積雪		
	本年 ℃	平年差 ℃	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級	本年 cm	平年値 cm	階級	本年 cm	平年値 cm	階級
稚内	-3.4	+0.9	+	31.5)	52	--	78.5	105	0	56)	105	--	78)	64	+
北見枝幸	-4.4	+1.0	+	49.5	88	0	96.3	95	0	72	110	-	78	98	-
羽幌	-3.6	+0.4	0	84.5	103	0	79.5	103	0	124	110	0	117	97	+
雄武	-5.1	+1.0	+	40.0	111	0	102.2	88	-	59	71	0	72	66	0
留萌	-3.0	+0.7	+	85.0)	124	+	79.9	115	+	136)	120	+	151)	86	++
旭川	-5.6	+0.4	0	49.5	90	0	108.4	113	+	103	97	0	70	84	-
網走	-4.6	+0.8	+	51.5	123	+	104.2	76	-	61	69	0	53	58	0
小樽	-2.3	+0.4	0	97.0	91	0	97.1	124	++	117	130	0	132	117	0
札幌	-2.2	+0.5	0	112.0	122	+	120.7	117	+	141	116	+	133	95	++
岩見沢	-4.2	+0.4	0	118.0)	138	+	119.0	107	0	188	137	+	155	118	+
帯広	-4.7	+1.0	+	19.5	68	0	210.2	110	+	27	37	0	60	63	0
釧路	-4.1	+0.2	0	16.0	65	0	202.0	110	+	15	27	-	27	26	0
根室	-3.3	+0.5	0	23.0	98	0	172.2	105	0	27	39	-	40	29	+
寿都	-1.4	+0.5	0	127.5	146	++	56.9	122	+	150)	114	+	110	71	++
室蘭	-1.3	+0.3	0	29.0	65	-	132.4	107	+	35	45	-	34	22	++
苫小牧	-3.0	+0.2	0	14.5	39	-	152.2	105	0	40	42	0	50	28	++
浦河	-2.1	0.0	0	20.0	69	0	176.3	110	+	44	35	+	11	16	-
江差	-0.2	0.0	0	85.0	124	+	62.3	108	0	65	60	0	62	24	++
函館	-1.9	-0.1	0	50.0	78	0	119.0	101	0	80	74	+	44	41	0
倶知安	-4.6	+0.3	0	156.0	121	+	78.3	120	+	213	187	+	218	181	+
紋別	-4.2	+1.1	+	43.5	131	+	98.9	87	-	87	77	0	81	58	+
広尾	-3.6	+0.3	0	32.0	53	-	190.1	117	++	68	70	0	88	86	0

注) ・平年値は1991～2020年の30年間の平均値です。

・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。

・「 ) 」付きの値は欠測を含む。「 ] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

## 月統計値の順位値更新一覧（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
2月	なし						

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先

札幌管区气象台 気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174